



ペアレントメンター相談会

● 発達障害の子供を持つ保護者の方
● 子育ての悩みや不安を相談したい方
● 子育ての経験やノウハウを共有したい方
● 子育ての悩みや不安を相談したい方

日時：3月11日(日) 10:30~11:45
場所：下関市こども発達センター
〒751-0827 下関市幡生本町26-12
TEL 083(233)9850

ペアレントメンター

こんにちは。ペアレントメンターをご存知でしょうか？
発達障がい、自閉症の子どもを育てている親が、山口県メンター養成講座を受講し務めています。
現在活動は、市民活動センターにて、毎月第二金曜日に相談会を開催しています。(開催日程センターホームページ掲載)

メンターとは、「信頼なる相手」という意味です。育児体験を生かし、悩みを聞いたり、経験談をお話したり、情報交換を行っています。今現在は、予約なしで、開催時間内に自由にきていただく形で行っています。

メンターは専門家ではありませんが、同じ親として、葛藤や不安に共感しながら、誰かに話すことや聞いてもらうことで、我が子のことを少しでも理解できたり、気持ちが楽になったりすることがあると思います。

子どものことで困っていること、誰かに相談したいこと、聞いてほしいこと、聞きたいこと...何でも気軽に話してみませんか？メンターができる形で、同じ悩みをもつ保護者のみなさんを応援します。
ご利用をお待ちしています。



下関市こども発達センター広報誌

わんぱく つうしん



第33号

発行所
下関市こども発達センター
〒751-0827
下関市幡生本町26-12
TEL 083(233)9850
FAX 083(233)9851



保育所等訪問支援事業



保育所等訪問支援事業は、制度としては平成24年に施行され、当センターでは、平成26年度より、就園の子どもさん3名からスタートしました。子ども達が通っている幼稚園・保育所等に当センターの職員が出向いて行っています。子どもさんが安心して通うことが出来るように、実際に子どもさんの様子を見ながら、先生方と支援の方法について検討し、連携を図っています。子どもさんの困り感、保護者の方の不安や心配、先生方からの相談に応じながら、進めていきます。

最初に保護者の方との契約が必要で、費用や頻度は各々異なります。

今年度は、はたぶ園から就園された3名が利用されていて、最初は不安も大きかったですが、半年過ぎてそれぞれに成長を感じています。



下関市こども発達センター 診療所

新型コロナウイルスの出現から2年が過ぎようとしています。今まさに第6波に突入し、凄まじい勢いで感染者が増加しています。コロナ禍で、おとなも子どもも生活環境が大きく変わりました。その影響を受けてか、相談内容にも変化が見られています。不安症状を強く訴え不登校となったケース、不潔恐怖のため手洗いがやめられないケース、ゲームがやめられず生活リズムが乱れたケース、運動不足で体重増加が著しいケース、そして世界的にも同様の傾向のようですが、摂食障害のケースが例年より多い印象です。当診療所のみでは解決できない問題も多く、今まで以上に他機関との連携が重要になってきています。解決にはかなりの時間を要することも多いのですが、それぞれの悩みに真摯に向きあい、子どもたちやご家族のみなさんが、少しでも前向きに日々を送れるようお手伝いしていきたいと思っています。

診療所長 大賀 由紀



寄贈品・マ厚意紹介

貴重なご寄付、ご寄贈をいただきまして、心よりお礼を申し上げます。ご寄付により、購入させていただきました玩具・備品などを紹介させていただきます。

- 株式会社 山口銀行長府支店様より
(住吉運輸株式会社様の寄付型私募債発行に伴うもの)
・プラレール 19点
・ソフトライダー平均台 3つ
・シューズラック 3つ
・鉄棒 3台
・グローブ 4つ
・トーマス 4台
・スーパースラッピーマット
・プリンター
・バランスクッション
・ジャンピングバー
・水でつぼう他
- 下関北ロータリークラブ様より
・机 2台
・わたなべ軽量折込ストレッチマット 3枚
・CDラジカセ
・パチパチスイッチ



いもほり体験

昨年10月、市内にお住いの西野さんのご厚意により、はたぶ園・キッズハウスの子どもたちもたが、いも掘り体験をしました。
彦島にあるいも畑で、いも掘りを楽しみ、楽しい時間を過ごさせて頂きました。良い思い出になりました。
ありがとうございました。



「つあさひ」

下関市こども発達センター
センター長 河合 和泉

吹く風は日に日に暖かさを増し、巡る季節は、冬から春へ。そして桜の季節になりました。こども発達センターの桜も満開です。

満開の桜の木は、やがて甘い果実をつけます。そして沢山の葉を茂らせ、幹を太くし、大きく育っていきます。

センターの桜の木もセンター誕生の時は、細い若木でしたが、今では見事な大樹に成長しています。

一昨年、昨年とコロナ禍によりセンター、ことに「はたぶ園」では様々な催しが中止、縮小を余儀なくされたので、保護者の皆さんに直接お子様の園での生活を見ていただくことが少なくなりました。

その中で新型コロナウイルス感染者が落ち着いた時期にクラス別とはなりましたが開催しましたクリスマス会ではご自宅では気づかれなかったお子さんの成長を実感することができたのではないのでしょうか。

別れの3月、出会いの4月と言われます。出会いがあれば別れが有りますが、別れといっても思い出は残ります。また、出会ったことにより得られた知識や経験は無とすることはありません。

こども達は、センターで出会った先生方やおともだちから得た経験を糧に成長してきました。また、これからの新しい出会いで更に成長していくことでしょう。

職員は、お子さんのセンターでの成長を、そしてセンターを巣立った後の更なる成長を楽しみに、発達支援、相談支援、療育等に日々励んでいます。

職員は、お子さんのセンターでの成長を、そしてセンターを巣立った後の更なる成長を楽しみに、発達支援、相談支援、療育等に日々励んでいます。

下関市こども発達センター 令和3年度をふりかえって

はたが園

うさぎ組

年少さん3名、年中さん3名、年長さん4名の計10名(男の子7名、女の子3名)のクラスです。そんなうさぎ組は、みんなパネルシアターが大好きです。いつも元気な声が飛び交い、リズムに合わせてノリノリです♪特にひらがなや動物にちなんだストーリーが好評です。また、男女問わずおままごとが人気で、子ども達なりに役割を決めて料理を作ったり、出来た料理を運んだり毎日大忙しです。日々の子ども同士の関わりから、順番を守ることや物の貸し借りなどを学び、相手を思いやる気持ちや優しさが育っています。



これからも子ども達にとって、うさぎ組が『楽しくて安心できる場所』であれば良いなと思っています。

きりん組

きりんぐみは、男の子7名、女の子3名総勢10名のクラスです。みんな気持ちの優しい、美男美女ぞろいです。男の子チームは一致団結し、トミカプラレールタウンを建設。

車や電車を走らせ、渋滞や時には事故現場(!)を再現しながら仲良く笑い声をあげて楽しんでいます。女の子チームは歌やダンス、おままごとに夢中いつでもクラスが賑やかで華やかな雰囲気になっています。

ボウリングなどのゲームでは順番をしっかりと待ち、お友だちを応援したり、ブランコの交代などにも応じてくれます。みんな優しいお友だちに成長しています☆



こあら組

年長児3名、年中児3名、年少児3名の計9名(男の子7名、女の子2名)の元気いっぱいのクラスです。こあら組はみんな仲良し!!まるで家族や兄弟の様に一緒にくっついて仲良く過ごしています。そして毎日色々な活動に、笑顔いっぱい取り組んでいます。造形あそびは皆大好きで、呈示を見ながら職員と一緒にそれぞれ一生懸命取り組んでいます。出来た時には、「できた」と職員に知らせてくれたり、笑顔で職員の顔を見てくれたりと、「頑張って自分でできたよ」という思いを見せてくれます。そして、お友達との関わりも沢山増えていて、友だちのお世話をしてくれたり、友だちが泣いていると「大丈夫?」と心配してくれる姿も見られるようになりました。

また、1日のスケジュールを写真カードで呈示することで納得して行動できるようになっています。これからも楽しい経験をたくさん積んでいきたいと思っています。



ぞう組

ぞう組は男の子9名、元気いっぱいのクラスです。今どきの男子はみんな育メン。ままごとが大好きでお人形のお世話をしたり料理を作って食べさせたりしています。病院ごっこはとってもリアル。まねっこ遊びは、大人もクスッと笑ってしまうような微笑ましいやり取りをしています。楽しいことをしているとみんな集まってくる仲良しクラスなので、順番待ちの練習をするチャンスがたくさんあります。顔写真のカードを見て「順番を待っていたらできるんだ!」と安心できると、お友だちの様子も楽しんで見られるようになってきました。

毎日いろいろな刺激を受けて、みんな大きく成長しました。これからも、楽しいことをたくさん経験できたらと思います。



発達支援室

昨年度に引き続いて、臨床心理士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士の各専門職が複数体制で、当センターと児童発達支援どーなつ各々の場所において、個別訓練や療育への参加、関係機関との連携等を行ってきました。

コロナ禍の影響により、制約された状況下ではありますが、少しずつ活動の場も元に戻りつつあるように思います。変異株の出現により、まだまだ予断を許さない状況ではありますが、安定した支援が行えるように努めていきたいと思っています。子ども達は、日々の経験を積み重ねることにより、着実に力をつけてきているように感じています。

今後もまた保護者の方々と共に、よりより支援が行えるように努めていきたいと思っています。



キッズハウス

4歳未満の子どもたちが保護者の方と一緒に活動に参加しています。活動前半に好きな玩具で遊ぶ時間があります。コーナーごとに様々な玩具を用意して遊びの提供をしています。自分の好きな玩具で遊んだり、お友達が遊んでいる様子を遠目で見たり、お母さんから離れられずじっとしていたりと様々な姿が見られます。少しずつ場所や人に慣れていき、玩具を使っている遊び方が上手になることやお友達と一緒に笑顔になること、保護者とのスキンシップ遊びを通して親子の遊び等が増えていくといいなと思っています。



下関市こども発達センター どーなつ(児童発達支援)

現在、どーなつは3歳~6歳の発達の気になる子ども達、約120名が在籍しています。1週間を午前と午後の10グループに分け午前のグループは「在宅児、他の児童発達支援事業所、幼稚園、保育園に通っている未満児、年少児、年中児」の5グループ。午後は「幼稚園、保育園に通っている年中児、年長児」の5グループです。週1回のグループ活動の中で他児と共に遊ぶことの楽しさや仲間意識、遊びのルール理解、達成感を目的とし、成功体験を重ね自信に繋がられるような支援を心がけています。また実物や絵・写真カードを利用し人に思いを伝えること、伝わる喜びを深めることなどのコミュニケーション支援を行っています。



下関市こども発達センター豊浦

部屋の中にある大きなホワイトボードは、朝の会や活動を提示するための絵カードを貼ったり、お絵かきのキャンパスになったりと、毎日大活躍しています。

お絵かきの好きな子どもたちがたくさん描いてくれる絵を見ることでみんなの成長を実感することが多くあります。消すのがもったいないくらい可愛い作品を見るととても癒されます。

